

大井谷地区

平成28年度 助はんどうの会 活動報告

・平成10年「助はんどうの会」発足～18年

○棚田オーナー田植え 平成28年5月15日(日)



棚田オーナー春祭(田植)

5月15日(日)大井谷棚田オーナー春祭り(田植え)が開催されました。晴天に恵まれたこの日、島根県をはじめ広島や山口県、遠くは京都など遠方から14組約60名のオーナーが大井谷に集まり田植えを行いました。今年度のオーナー数は16組で、昨年度より引き続き参加される方が15組、新たにオーナーになった方が1組となっています。オーナーは泥の中に足を踏み入れ、その感触と苗の列を確かめながら作業を進め、大井谷での春の1日を楽しんでいました。

オーナーの方々からは「親戚が集まれる場となっている」、「昨年より植えるのが上手になった。」という声や「子供をたくましくしたいので参加した」などの声があがっていました。今後は、草取り・交流会と稲刈りが予定されており、秋には自分たちが育てた棚田米の味を味わうことができます。

○棚田オーナー草取り&交流会 平成28年6月19日(日)



棚田オーナー草取り・交流会

6月19日(日)、棚田オーナーの草取り作業が行われました。田植えから1ヶ月が経ち、一面青々とした景色が広がる大井谷。この日は草取り作業直前までカミナリが鳴るような悪天候でしたが、オーナーのみなさんの行いの良さに草取りの時間には天気に恵まれ、無事に草取りを行うことが出来ました。

経験が浅いオーナーさんは、イネとヒエの違いに悪戦苦闘していましたが、ベテランのオーナーさんは、あっという間に作業を終えていました。

作業をすませた後は毎年お楽しみの交流会が開催され、棚田米むすびやバーベキューなど大井谷でとれた旬のものを囲んで、賑やかな雰囲気の中、農家のみなさんとオーナーのみなさんとの親睦を深めました。

※棚田オーナー収穫祭(稲刈)は雨天のため中止 オーナーと個人が各自調整して稲刈を実施

大井谷棚田の現状と課題

- 現状
- ・高齢化による活気の低下 棚田オーナー制度を始めてから18年経過し当時60代の方が80代へ・・・
 - ・若者も都市部に出て高齢化が顕著になり土地の空洞化が発生、耕作放棄地が増加
 - ・集落機能の低下で平成10年から毎年開催していた棚田祭りも平成28年度から実施できていない状況
 - ・若い人に棚田を守って欲しいという思いがあるが、棚田を耕作するのはとても難しく簡単に人に勧めることが出来ない。
 - ・棚田オーナーの減少(最大時) ^{39組} → ⁵ 19組

- 課題
- ・棚田を保全する担い手の育成。担い手の支援
 - ・水路や石垣等の修繕

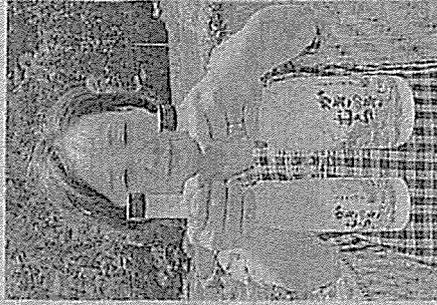
棚田オーナー制度

平成 11 年から開始 平成 29 年度 16 組

	区画数	面積	農家数	内 訳
H11	22区画	2,530㎡	8戸	広島県：15組、山口県：3組、島根県：4組
H12	26区画	3,210㎡	10戸	東京都：1組、広島県：9組、山口県：5組、島根県：11組
H13	30区画	3,560㎡	12戸	広島県：9組、山口県：6組、島根県：15組
H14	36区画	4,460㎡	10戸	広島県：11組、山口県：9組、島根県：16組
H15	39区画	4,820㎡	10戸	福岡県：1組、広島県：13組、山口県：7組、島根県：18組
H16	35区画	4,400㎡	10戸	福岡県：1組、広島県：11組、山口県：5組、島根県：17組、京都府：1組
H17	31区画	3,850㎡	9戸	福岡県：1組、広島県：9組、山口県：4組、島根県：15組、京都府：1組、東京都：1組
H18	31区画	3,810㎡	8戸	広島県：10組、山口県：4組、島根県：14組、京都府：1組、和歌山県：1組、東京都：1組
H19	28区画	3,310㎡	9戸	広島県：10組、山口県：3組、島根県：12組、京都府：1組、東京都：1組、和歌山県：1組
H20	24区画	2,870㎡	8戸	広島県：9組、山口県：3組、島根県：10組、京都府：1組、東京都：1組
H21	25区画	2,940㎡	8戸	広島県：11組、山口県：3組、島根県：9組、京都府：1組、東京都：1組
H22	26区画	3,080㎡	8戸	広島県：11組、山口県：3組、島根県：9組、京都府：1組、東京都：1組
H23	26区画	2,910㎡	8戸	広島県：13組、山口県：3組、島根県：7組、京都府：1組
H24	24区画	2,890㎡	8戸	広島県：13組、山口県：4組、島根県：5組、京都府：1組
H25	21区画	2,390㎡	7戸	広島県：10組、山口県：3組、島根県：6組、京都府：1組
H26	21区画	2,200㎡	7戸	広島県：10組、山口県：3組、島根県：6組、京都府：1組
H27	21区画	2,060㎡	7戸	広島県：10組、山口県：3組、島根県：6組、京都府：1組
H28	17区画	1,790㎡	5戸	広島県：5組、山口県：3組、島根県：7組、京都府：1組
H29	16区画	1,565㎡	5戸	広島県：4組、山口県：3組、島根県：7組、京都府：1組

柿木(高)有志が
米焼酎を開発
大井谷棚田使い

高賀町柿木村の有志が開発した「米焼酎
かきのまむら」



高賀町柿木村の有志が、日本の棚田百選に認定されている高賀町柿木村大井谷の棚田のコメを使った「米焼酎 かきのまむら」を開発した。加工品の製造を通じ、清流に育まれた棚田米の魅力を発信するとともに、農家の所得向上と新規農業者の増加を目指す。関係者が18日、同村大井谷の集会所で完成を報告し、町内の道の駅や酒屋で販売を始めた。

大井谷棚田は石積みで景観的に広がる棚田で、点在する民家が織りなす美しい景観が有名。しかし、地元住民組織「助はんどら」の会によると、ここ1、2年は生産農家の高齢化の影響で水稲の作付面積が減り、耕作放棄地が増えた。

米作りの担い手確保と持続的な景観維持を図る必要があると、自営業の赤松正さん(63)と高賀町柿木村下須上ら3人が米焼酎の開発を企画。農家から2016年産コシヒカリを高値で仕入れ、高崎県日南市の焼酎蔵に製造委託した。

棚田米の豊かな香りと旨

さ、ゆづりの旨さを特長で計1400本を醸造し、720本(純別2500本)を800本(375本)と1600本(同1500本)を1600本商品化した。3人を中心として8月に合同会社を設立する計画で、来年は町外への販路拡大を目指す。3年後には2千本を増やしたい考え。

報告会では町民約30人がまさやかな味に舌鼓を打った。赤松さんは「棚田の景観維持には生産者の意欲向上が大切だ。焼酎の販売促進に努め、棚田米の需要を高めたい」と話した。

(小村海)

都 川 地 区

都川の棚田

石どころ都川の棚田は、一見城郭の石垣をも連想させる程の整然としたたたずまいを放っています。

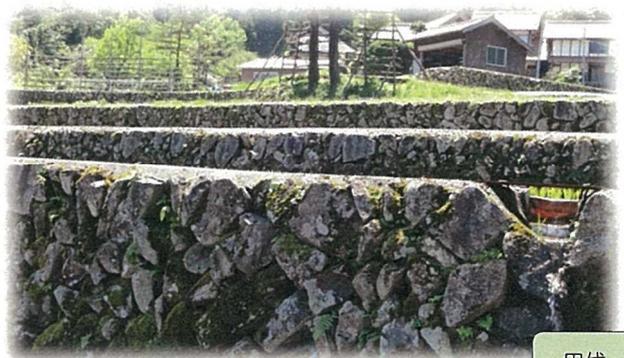
幾世代にもわたって保たれ、今も地道な維持管理が行われています。

この棚田では、景観としての文化的遺産のみならず、澄んだ清水と昼夜の温度差にも相まって育まれた米の味が高く評価されています。

また、平成 28 年度都川地区では、中山間ふるさと水と土保全推進事業により、棚田の案内看板を整備していただきました。今後、さらに多くの皆さんにお越しいただき、美しい農村風景を見ていただけることを願っています。



イズモジョウ



田代



大屋形

500m



熊ヶ谷

500m



案内看板と誘導看板

田舎ツーリズム

都川地区では、「棚田と古民家を体感する」をコンセプトに、2軒の民家で田舎ツーリズムを実施しています。それぞれに特色ある取組みを行っており、県内外から多くの方が訪れています。

古民家茶屋「杉長迫」



縁側喫茶「右衛門田」



「体感」縁側喫茶「右衛門田」

～ しまね田舎ツーリズム～

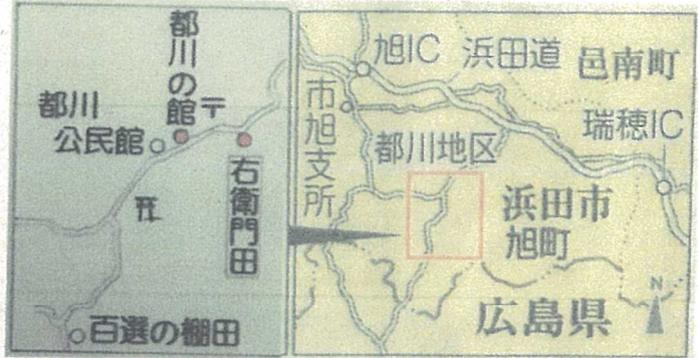
都川の棚田と古民家を「体感」していただきたく「縁側」を開放しています。
ご用意した「おもてなし」の抹茶体験などで、たおやかな時間をお過ごください。

開放日 5月～11月の

第一及び第三日曜日

時間 午前9時～午後4時

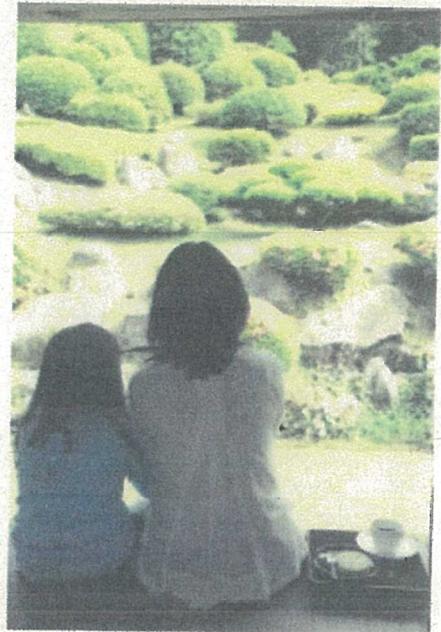
(開放中は緑の旗を掲げています)



体験料金 大人 500円 子供無料 (抹茶、コーヒー、米粉ケーキ)

アクセス 県道5号線沿い瑞穂インターから20分 旭インターから15分

屋敷の背後は下都川の誇るイズモジョウの石垣棚田です。
果々と幾段にも積み重なる棚田総数 51 枚の大石垣棚田群
です。



お立ち寄り

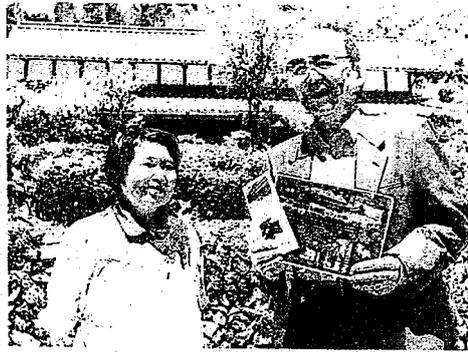
- 展示施設「都川の館」
展示替えは年3回行います
一階は郷土資料と神楽面工房
二階は地域の蔵出しギャラリー
自由にご覧ください。



(お問い合わせ 〒697-0511 浜田市旭町都川2159 白川則子 ☎0855-47-0423)

棚田の里で田舎体験を

都川の村武さん



「日本の棚田百選」に選定されている「都川の棚田」がある地区内で、田舎ツーリズムの受け入れに意欲を示す村武正行さん(右)と千代子さん

山菜採りやモロコシ釣り

ツーリズム受け入れ

県内からの観光客に好評で、毎年5、10月には市広場PRセンターを通じて50人を受け入れた。人気が高かった千代子さん(特設)のせいで、変わらず提供される。

提供する。

ロコモを企画が伝わり、5月中旬以降、既に予約が入っているという。正行さんは「棚田をはじめ、美しい山や川、澄んだ空気を満喫し、田舎体験を存分に楽しんでもらいたい」と話す。

利用料金は1人500円で、開業時間は午前9時～午後4時。11月まで開催する。問い合わせは村武さん、電話0855(4)0617。

(第3版掲載記事)

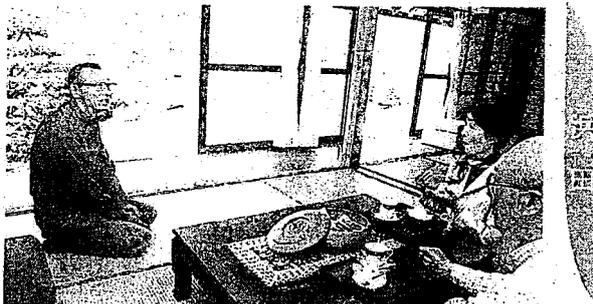
「日本の棚田百選」に選定されている「都川の棚田」がある浜田市旭町都川地区で、村武正行さん(73)と千代子さん(73)夫妻が「都川市旭町都川」が今年、田舎ツーリズムの受け入れを始めた。築180年を超える自宅の古民家を趣向に、山菜採りや養殖モロコシ釣りなどの体験プログラムを用意。石垣棚田の景観とも相まって、単山の魅力発信する。

(佐々木一幸)

自由にするまで趣向を凝らした。村武さん方は江戸時代、たたら製鉄業を営み、受け継いだ木造平屋の古民家を活用し、2012年から自ら「縁側喫茶」として開放し、お茶や料理でもてなしてきた。活動を続ける中で、「室内だけではない、豊かな自然に自由に遊ばせたい」との思いが湧き、田舎体験の受け入れを提案。完全予約制で、人以外団体客を対象とする。縁側喫茶は、独自の菜園やびんごの育ててが

縁側喫茶輪広げたい

高齡化などで今季1軒に



縁側喫茶への訪問客をもてなす白川英隆さん(左)

今年、別の軒が縁側喫茶とは違った趣向で観光客をもてなす企画に挑戦するため、白川さんの方のみ、「1軒ではたかが知れている。もっと増やしたいが、自宅を開放するのは難しい」という人が多いと明かす。

白川さんは、旭町内に趣向を注いで声をかけており、来季には縁側喫茶の輪を広げて「ふるさと旭町内を回って」もらえるように「なれ」と思っている。

(第3版掲載記事)

都川の白川さん 参加呼び掛け 町内周遊思い描く
縁側喫茶は、江戸時代が終わり、初日の7日には、石垣棚田の景観を文脈内や広島県から3エリア、宇通、民家の縁側から眺める中心に訪問客が相次いでいる。白川さんと妻の千代子さん(88)が訪れた客は、津町の井後美奈さん(77)は、2012年に民家4軒で始めた抹茶の体験を勧め、コーヒーロールケーキでもてなす。以前から「歴史をたどりたい」と思っていた縁側も美しく、お茶を淹れてくれる理由が、今年4月下旬に田舎えらう」と、感動して縁側で茶と煎餅を減らした。